



主要諸元:(ダイハツ WAKE G 4WD)

- 全長×全幅×全高／3,395×1,475×1,835mm
- ホイールベース／2,455mm
- トレッド／前:1,305mm 後:1,295mm
- 車両重量／1,060kg
- 最小回転半径／4.7m
- エンジン／KF(658cc 直列3気筒 DOHCインタークーラーターボ)
- 最高出力／64ps/6,400rpm
- 最大トルク／9.4kgm/3,200rpm
- JC08モード燃費／23.2km/ℓ (FF車NAは25.4)
- ミッション／CVT
- ブレーキ／前:ベンチレーテッドディスク 後:リーディングトレーリング
- タイヤサイズ／165/55R15
- 駆動方式／4WD
- 乗車定員／4名
- 車両本体価格(札幌地区)／1,830,600円(消費税込)

さを生んでいる。
これだけの全高では安定性に不安を感じる方がいるかも知れない。このためダイハツでは次のような徹底した対策をとっている。先ずは外板バーツの樹脂化。バンパー、フェンダー、パックドア、spoilerなどに樹脂パーツを採用してボディを軽量化し、全体を低重心としたこと。また空力特性を磨き、ドアミラー付け根やテールランプにフィンを設けることにより、高速走行時には左右で分かれる空気の流れによって直進安定性を確保したこと。さらにはペアリング、ブレーキの転がり抵抗を低減したり、骨格の軽量化、高張力剛板の採用など。残念ながら高速走行は試せなかつたが、常用域でのコーナリングや急ハンドルにおいて、大袈裟なロールや剛性不足を感じることは一切なかつた。むしろ軽快ドライブすることができた点は特筆に値する。

そこまでしてクラス最大の全高にこだわった理由はもちろん有効スペースの確保である。カタログに「ウェイクの積載マジック」と書かれているのは大袈裟ではない。例えばロードバイク／クロスバイクなどの自転車はタイヤを外すことなく、そのまま2台収納できてしまう。オプションの収納システムを組み合わせれば、天井にロッド(釣り竿)を5本固定することも可能。スノーボードは斜めに立てかけて固定することができる、ゴルフバッグは寝かせずに立てて固定できる。

■多様化するライフスタイルを支える「夢を運ぶ」クルマ

こうしたこだわりを、ダイハツ製品企画部チーフエンジニアである中島雅之氏が次のようく表現している。「荷物を運ぶのではなく、使う人の夢を積んで走るクルマにしたい」。そして開発チームはサイクリングを楽しむ人達からヒヤリングを行ったり、自らキャンプを経験するなどして「生の声」を集め、さらに全国のデイーラーから多くの意見を吸い上げたという。趣味はもちろん、ライフスタイルそのものが多様化している中で、こうしたマーケティング活動はおそらく間違っていない。製品である以上、結果がすべてではあるが、ウェイクのパッケージングは極めて斬新であるし、これまでの軽自動車のイメージを大きく打ち破る強烈なインパクトを持つ。現に現車をお借りしたダイハツ北海道販売新琴似店では、発売後一週間余りで大きな反響を集め、40代を中心とした幅広い年代層の方々が来店しているという。

エンジンは直列3気筒12バルブDOHCの自然吸気とインタークーラーターボの2種。4WDは、G／X／L／Dがあり、さらに全グレードにスマートアシスト(低速域衝突回避支援ブレーキ機能)搭載車が設定されるので、全グレードと捉えると分かりやすい。試乗したのは4WDのスマートアシスト付きGにオプションが色々と設定された上級グレードで

■スマースで安定感のある走り ■インフレッシュション

スリーサイズは全長3,395×全幅1,475×全高1,835mm、ホイールベースは2,455mm。全長／全幅は軽の枠一杯なのにライバル車とほぼ同等ながら、突出しているのは全高である。この恩恵で室内高は1,455mm、ラゲッジ室内高で1,140mmを確保しており、さらにアイポイントをミニバン並みの1,387mm(身長170cmの場合)とすることで安全運転に寄与する視界の良

内外とも四角くて広い! 夢を一杯つめ込める、軽の枠を打ち破る快作



DAIHATSU WAKE

■テキスト=横山聰史(Lucky wagon) ■Photo=川村勲(川村写真事務所) ■取材協力=ダイハツ北海道販売 新琴似店 Tel(011)764-8551

ダイハツから極めて個性的な新型モデル「ウェイク」が登場した。軽自動車のカテゴリーには以前からトールワゴンが存在していたが、なんと1,835mmという全高を持つことから、軽スーパー・ハイ・トールワゴンと表現されている。昨年10月末の東京モーターショーで「DECA DECA」として出品されたコンセプトモデルをベースに、市販のための改良を受けて登場したものだ。現車を目の当たりにして「でかつ!」。乗車させていただくことにする。それほどのインパクトと可能性を秘め、もはや完全に軽のカタゴリーを飛び出した存在である。

■大きいなるインパクトと可能性 ■プロフィール



ディーラーメッセージ

ダイハツ北海道販売 新琴似店
カーライフアドバイザー

大谷 圭さん

お陰さまで発売以来、大きな反響をいただいております。これまでの軽ワゴンの常識を打ち破る圧倒的な室内空間と安定感の高い走行性能。そして軽自動車ならではの経済性。なによりも所有することでライフスタイルの自由度と可能性を一気に広げてくれるクルマです。是非一度乗ってみてください…ウェイクの魅力を見つけていただくには、それが近道です。軽自動車に抱いておられるイメージや価値観が大きく変わることうけあいです。



インテリアもエクステリアに違わず四角い造形が多いが、当然ながら円形よりも四角く面をとった方が有効スペースを容易に生み出すことができる。ウェイクではそれを逆手にとつて、無骨さをシンプルさに置き換えることで多くの収納スペースを生むことで自由度を大きく広げている。

例えば通常グローブボックスがある位置には大きなトレイが配され、一眼レフカメラも難なく収まる。助手席の座面を起こせば

■自分好みにカスタマイズして、 ライフスタイルをより楽しむ

アイポイントはセダンのように低くないから、コーナーでの体感的なロールは大きい。しかし重心の低さとボディの高い剛性は如実に感じられ、クルマ全体の「一体感」と言おうか、收まり具合と言おうか、しっかりとタイヤが踏ん張った状態で走り抜けてくれる。この挙動には驚かされたが、決して「ハイトルだから」と採点基準を緩めているわけではないことは明記しておきたい。

ドライバーにしては驚くべき走り方。軽自動車には珍しく、ターボ車でもある。しかし、ターボ車であっても急激なトルクの立ち上がりは感じない。しかしともスムーズなフィーリングで、特にCVTをSMモードにして加速すると、気づけば車群をリードしているという状況だった。積極的に走りを楽しみたいという向にもきちんとアピールする性能を持っている。

自然吸気エンジンは最高出力52ps/6,800rpm・最大トルク・6・1kgm、ターボは最高出力64ps/6,400rpm・最大トルク・9・4kgm。軽自動車にはエコカーとしての要素も欠かせないので、ターボ車であっても急激なトルクの立ち上がりは感じない。しかしともスムーズなフィーリングで、特にCVTをSMモードにして加速すると、気づけば車群をリードしているという状況だった。積極的に走りを楽しみたいという向にもきちんとアピールする性能を持っている。

アンダーボックスがあり、ダッシュパネル左側にはカップホルダーが鎮座している。ドアポケットにもドリンクホルダーがあるので、カップホルダーはドリンク専用というより、自由に使える小物入れとなっている。ラゲッジ床面のデッキを起こせばアンダートランクが出現するので(F/Fは深さ320mm/4WDは115mm)背の高い鉢植えなども収まってくれる。

シートアレンジも自由で多彩。助手席のシートバックはテーブルになっているので倒すだけで使えるし、後席からラゲッジまでをフルフラットにしたり、大人一人が余裕で横になることのできるロングソファモードにもなる。シート表皮はすべて撥水加工で、ラゲッジ側は防水仕様。雪や雨でウエアが濡れてもシートエプロンなるオプションを用意することで車内を汚さず済む。

カタログにはキャンプ、トレッキング、フィッシング、サイクリング、サーフィン、スノーボードと6種の趣味に合わせたコーディネートが紹介されているが、もちろんシヨツピングや荷物の運送、ペットとの暮らしなど状況に合わせ、様々な使い方が期待される。例えるなら、だだっ広いワンルームの空間を、「どうぞ、自分好みにカスタマイズして下さい」と訴えて来るようなものだ。しかもオプションは充分に用意され、あとはドライバーの創意工夫次第といったところ。自分だったらこんな時にこう使うとあれこれ考えを巡らせるが、自然に楽しい気分になつてくるが、これこそダイハツの提唱する「夢を運ぶクルマ」の真意ではないだろうか。